

令和 7 年度病害虫発生予察予報第 2 号(令和 7 年 5 月)

令和 7 年 5 月 8 日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稲	スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u>
カンキツ類	カメムシ類	<u>やや多(県下全域)</u>
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西、西)</u> 平年並(中西、西)、少(中央) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(西)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央、西)</u> <u>多(中西、西)</u> 、やや少(中央)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、少(中央、西) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(西)</u> 、やや多(東、中央) 少(県下全域) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、西)
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、平年並(中央)、やや少(中西) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東、中西) <u>多(東、中央)</u> 、やや少(中西) <u>やや多(東、中央)</u> 、やや少(中西) <u>多(東、中央)</u> 、少(中西) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、中西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東)、やや少(中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	やや少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台5月1日発表)

5月3日から6月2日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は、平年並、高い確率ともに40%です。降水量は、多い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並、高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並、高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	20	40	40	
		降水量	30	30	40	
		日照時間	40	30	30	

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	30	50	20
2週目		20	40	40
3～4週目		20	40	40

<予報の対象期間>

1か月:5月3日(土)～6月2日(月)

1週目:5月3日(土)～5月9日(金)

2週目:5月10日(土)～5月16日(金)

3～4週目:5月17日(土)～5月30日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量:多(中央部)、やや多(中西部、西部)

根 拠

(1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、中西部、西部で平年並であった。発病程度は中西部で平年より高く、中央部、西部で平年並であった。

(2) 向こう1か月の降水量は平年並か多く、気温は平年並か高くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し

結露しやすくなるため、晴天時には特に注意する。

2) うどんこ病

予 想 発生量: 平年並(中西部、西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部、西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は中西部、西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 5月の気温は平年並か高いものの、降水量は平年並か多いと予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量: 多(中央部、中西部)、やや多(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、西部で平年並であった。発病程度は中西部、西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 各地域とも既発ほ場を中心に新たな発生が確認されている。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は、県下全域で確認されている。
- (3) 気温が上昇し、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、栽培の終了時にはハウスを密閉して蒸し込み等により、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう注意する。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

4) 退緑黄化病

予 想 発生量: 多(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 各地域とも既発ほ場を中心に発生が確認されている。また、媒介虫であるタバココナジラミの発生は、県下全域で確認されている。
- (3) 気温が上昇し、本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底するとともに、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量: 多(中西部)、やや多(中央部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりやや多く、中央部、西部で平年並であった。発生程度は中央部、中西部で平年並、西部では低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除は上位葉を重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、次作に向けて天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も検討する。本虫は黄化えそ病を媒介することから、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量: 多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部、西部で平年より多く、中央部で少なかった。発生程度は中西部で平年よりも高く、西部でやや低く、中央部で平年より低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、次作に向けて天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も検討する。本虫は退緑黄化病を媒介することから、栽培の終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量: 多(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では東部と中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部では少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中央部で低かった。
- (2) 5月の気温は平年並か高いものの、降水量は平年並か多いと予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量: 多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年並、東部と中央部では低かった。東部、中央部では果実への被害(水疱症)の発生も確認された。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並か多く、気温は平年並か高くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなるため、晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

3) すすかび病

予 想 発生量: 多(西部)、やや多(東部、中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部、中央部で平年並であった。発病程度は西部で平年よりも高く、東部、中央部では平年並であった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並か多く、気温は平年並か高くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなるため、晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量: 少(県下全域)

根 拠

- (1) 4月の調査では、中央部で発生が見られ、発生面積は平年より少なく、発生程度は平年より低かった。
- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量: 多(中央部)、平年並(東部、西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部、西部で平年並であった。発生程度は中央部、西部で平年より高く、東部で低かった。

- (2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量: 多(東部)、平年並(中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年よりも多く、中央部で平年並、中西部でやや少なかった。発病程度は東部で平年並、中央部、中西部で平年より低かった。
- (2) 5月の気温は平年並か高いものの、降水量は平年並か多いと予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量: やや多(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、中西部で少なかった。発病程度は中西部で平年より高く、中央部でやや低かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並か多く、気温は平年並か高くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなるため、晴天時には特に注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量: 多(東部、中央部)、やや少(中西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中央部で平年よりも多く、中西部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、東部でやや低く、中西部で低かった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年並か多く、気温は平年並か高くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなるため、

晴天時には特に注意する。

(2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量: やや多(東部、中央部)、やや少(中西部)

根 拠

(1) 4月の調査では東部と中央部で発生が見られ、発生面積はいずれも平年並、発生程度は東部で平年並、中央部で平年より低かった。

(2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤防除は本虫の若齢期に行うとともに、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

(2) 卵塊やふ化後の幼虫集団を見つけたら、直ちに処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量: 多(東部、中央部)、少(中西部)

根 拠

(1) 4月の調査では東部、中央部で発生が見られ、発生面積はいずれも平年より多かった。発生程度は東部で平年よりも高く、中央部で平年並であった。

(2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカシミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) チャノキイロアザミウマ

予 想 発生量: 多(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 拠

(1) 4月の調査では中央部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。生長点部や果実被害も確認された。

(2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除は株全体にかかるよう丁寧に行う。

7) タバココナジラミ

予 想 発生量: やや多(中央部)、平年並(東部)、やや少(中西部)

根 拠

(1) 4月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりやや多く、東部で平年並、中西部でやや少なかった。発生程度は中央部でやや低く、東部、中西部で低かった。

(2) 気温が上昇し、本虫の増殖には好適となるものの、ほとんどのほ場でタバコカシミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量: やや少(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より少なく、発病程度は平年より低かった。
(2) 向こう1か月の降水量が平年並か多くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は22℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなるため、晴天時には特に注意する。
(2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

2) すすかび病

予 想 発生量: 多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度は平年並であった。
(2) 向こう1か月の降水量は平年並か多く、気温は平年並か高くなると予想されていることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。日射が強くなり、ハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから晴天時には特に注意する。
(2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) うどんこ病

予 想 発生量: 多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度は平年より低かった。
(2) 5月の気温は平年並か高いものの、降水量は平年並か多いと予想されていることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量: 多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
(2) 既発ほ場を中心に新たな発病株が確認されている。また、媒介虫であるタバココナジラミの発生面積も平年より多い。

- (3) 気温が上昇し、本病の媒介虫であるタバココナジラミの密度が高まると見込まれること、潜在感染株で発病が見られ始めることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底するとともに、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう注意する。
(2) 発病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量: 多(中央部)

根 拠

- (1) 4月の調査では発生面積は平年より多く、発生程度は高かった。
(2) 気温が上昇し、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、次作に向けて天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も検討する。
(2) 本虫は黄化葉巻病、黄化病を媒介することから、栽培終了時にはウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう、ハウスを密閉して蒸し込み等による防除を徹底する。

5 水稻の病害虫

1) スクミリンゴガイ

予 想 発生量: やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 2月の低温により、越冬個体は平年よりも少ないことが予想されるが、5月の気温が平年並か高いと予想されており、今後の成貝の活動が活発になると考えられることから、発生はやや多くなると予想される。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2~3週間はできるだけ浅水管理を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
(2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
(3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

6 カンキツ類の病害虫

1) カメムシ類

予 想 発生量: やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 県内4地点(安芸市、香美市、須崎市、四万十市)で実施しているフェロモントラップ

ブ調査における4月の誘殺数は、西部で12頭(平成15頭)と平成並であるものの、東部で14頭(同3.6頭)、中央部で9頭(同6頭)、中西部で78頭(同49.7頭)と平成より多くなっている。

- (2) 2月の低温により、越冬個体は平成よりも少ないことが予想されるが、5月は平成同様晴れる日が多く、気温も平成並か高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件になると考えられる。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)